

職場体験 感想文コンクール2025

タイトル	いづもありがとう	事務局	545
学校名	明倫学園	氏名	小森 陽菜乃

おじいちゃんの仕事って、こんなに大変なんだ。

私は、夏休み中の職場体験で、なめこのパック詰めや運搬作業を行うおじいちゃんの職場に行くことにした。

おじいちゃんの1日の仕事の内容と、私が実際に体験した内容は、ほとんど同じだった。出勤するとまず、箱のスタンプを押す作業から始めた。その後、パック詰めしたなめこを決まった数だけ箱に入れて冷蔵庫へ運んだ。出荷作業では、夏は発泡スチロールの保冷剤をパック詰めしたなめこと一緒に、トラックに詰め込み、農協まで運んだ。農協では約100〜200ヶ入の箱を指定された場所に決められた並べ方で並べる作業を行った。

実際に体験してみると、思った以上に力仕事だと分かった。トラックに箱を積んだり、上り下りして運ぶ作業は体力を使い、腕や腰にも負担がかかるため、筋肉痛のような状態になった。

なめこの大きさは四段階に分かれていて、一つのサイズの作業が終わると次のサイズに切り替える必要があり、ただ力を使うだけではないことも分かった。そのため、1日がとても長く感じられ、体力と集中力の両方が求められる仕事だと実感した。

それまでは、なめこはスーパーで簡単に手に入る食材だと思っていて、おじいちゃんから出荷の仕事だと聞いても、どんな作業かあまりイメージできなかった。力仕事は少なく、ただ箱に詰めるだけだと思っていた。しかし、実際の作業は予想以上に大変で、順番や効率を考えながら進める必要があった。この経験を通じて、なめこに限らず食べ物大切にしたいという気持ちが強くなり、働く人への感謝をわいた。普段何気なく食べているなめこも収穫する人、パック詰めする人、農協へ運ぶ人など、多くの人の手が関わっていることに気がついた。職場体験が終わってから、スーパーで自分が詰めたなめこを見つけると嬉しくなり、気がつくたびに毎回なめこコーナーを探して買うようになった。そのたびに、自分の手で詰め

たなめこが実際に出荷され、誰かの食卓に届くのだと思うと、大ききやりかえを感じた。パックを見つめてみると、体験した作業の一つ一つが思い出され、作業場で聞こえた音や広がっていたなめこの独特な匂いまでがよみがえってくるようになった。そして、全ての作業を終えた時には、疲れもあったが、それ以上に達成感のほうが大きかった。

この3日間の体験を通じ、将来は管理栄養士や看護師のように、人の生活や健康を支える仕事を目指したいと思った。

おじいちゃん、いつもありがとう。